

明海大学 不動産学部

# 不動産の不思議

第79回

学生たちの視点と発見

## 【学生の目】

雨の日に市街地を歩いていて普段と違う光景に気が付いた。最上階の庇(ひさし)から地面まで管のようなものが取り付けられていて水が流れていた。建築物を構成する建材の一つである樋(と)いだ。

## デザインされた樋

の不思議第10回「13年11月26日号」、見た目を悪くすることも多い。写真の建物の樋は一般的な建物と比較して特徴がある。まずアルミでつくられていて、塩ビの樋に見られる継ぎ目がなく、スマートである。また、やや太めで重厚感がある。更に、本数が多くリズム感がある。その結果、柱のように見え、一目では樋とわからない。樋が建物のデザインをだめにする付随物ではなく、むしろデザインを引き立てるアクセントとなっている。

次に、玄関だ。分譲マンションのエントランスホールに似た玄関が、安心感と高級感を与えている。また、直方体の形をした玄関が、妻側を道路に見せる建物にありがちな退屈さ(川添那子「不動産の不思議第22回」14年2月25日号)を解消して、建物の正面らしさを作り出している。全体として、道路から見ていい感じの建物だ。日本は年間の降水量が世界平均の約2倍と多い。樋は不可欠だが、デザイン的にはマイナスイ。日本では外廊下型の賃貸アパートが多

# 魅力引き立てるアクセント

樋は住宅や店舗の軒先で雨水を集めて横に流す軒樋と、軒樋の雨水を地表や下水に流す堅樋で構成される。堅樋の本数は屋根の奥行きや庇の長さなど、雨が降りかかる屋根面積で決定する。外壁の所どころに無造作に付けられて(垣田将吾「不動産

デザイン性の高いアパートである。まず、外廊下の手すりだ。鉄骨造ではアルミの堅格子が一般的だが、デザインされた鋳物のような手すりに程よい重量感と透明感があり、建物に深みを与えている。

問題もある。自動販売機が、細かく配慮された建築デザインと全くかけ離れたセンスのなごで設定されている(富山大貴「不動産の不思議第20回」14年2月11日号)。センスのあるデザイナーに設計してもらった

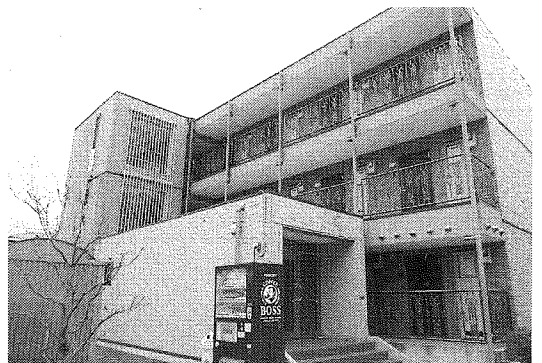
のだから、オーナーもセンスを台無しにしないようにすべきだ。自販機を設置したが管理会社であれば、その会社はこの建物の管理には相応しくない。【教員のコメント】

堅樋と鋳物風手すりが退屈になり勝ちな賃貸アパートの外廊下に緊張感と形体を与え、階段室や玄関の直方体に連続性を与えている。人は何かをきっかけによく観察する。きっかけを与える何かを持つことが競争力につながる。樋さえも力の源泉だ。



熊崎 瞬

不動産学部3年



デザインの優れた建物に自販機は似合わない